

発端 = ニュータイプ新作絵 }

345 名前: 名無しさん@お腹いっぱい, [sage] 投稿日: 2010/01/07(木) 00:41:45 ID:18nNG2zc }  
でもりっちゃんベストパーカニスト }

346 名前: 名無しさん@お腹いっぱい, [sage] 投稿日: 2010/01/07(木) 00:43:05 ID:6SmFK/UG }  
よし俺もパーカー買ってこよう }

349 名前: 名無しさん@お腹いっぱい, [sage] 投稿日: 2010/01/07(木) 00:50:06 ID:VcLju5yR }  
律「ぱーか!ぱーか!」 }

350 名前: 名無しさん@お腹いっぱい, [sage] 投稿日: 2010/01/07(木) 00:52:15 ID:QFDL9dq9 }  
唯「りっちゃんが半濁音しか発音できない病気にかかっちゃったよ!」 }

352 名前: 名無しさん@お腹いっぱい, [sage] 投稿日: 2010/01/07(木) 00:53:55 ID:6SmFK/UG }  
律「ト ラム最高!」 }

唯「りっちゃんが半濁音しか発音できない病気にかかっちゃったよ!」

澁「な、なんだって!それは日常的に不便じゃないかっ!」

紬「ああ、澁ちゃん!そんなに濁音のある単語ばかり使ったらりっちゃんが可哀想よ!」

唯「聴くんがそれ聞いて爆笑したんだって!結構ショックだったみたいだから!」

澁「ああ」 紬「わかったわ」

唯「あ、りっちゃんが来るよ、みんな気をつけて」

律「やっほーみんなー、先生に居残りさせられてさー」

唯「遅いよりっちゃん、モーダm...いけない子っ」

澁「ほら、もうお菓子あるからな、早く食って練習d...しないと!」

紬「今お茶入れるわねー」

律「お、さんきゅー、んー 今日のお菓子美味しいなー」

唯澁紬(.....あれ?)

澁「ほ、ほら律、これやるよ、苺」

唯(澁ちゃん!)

律「お、ありがとー、うん、美味しい美味しい」

紬(...もしや...)

紬「今日はダーズリンにしてみたの、どう、りっちゃん」

唯(ムギちゃんも!?)

律「お、そうなのかいやー、いつもとち...いつもより変わったお茶とは思ったよ」

唯澁紬(.....笑われないように無理...してる...!!)

梓「ふうー、遅くなってすいません、掃除があったんで」

律「遅刻すんなよー"あちゅさ"(梓)!」

唯澁紬「ブフツ!!」

律「! .....うわああああ!」ダッ

梓「.....はい?」

唯「りっちゃん... あちゅ...ふいっ」

澁「だ、ダメだろ唯...笑っくく...」

紬「そ、そうよ.....ふ...」

梓「.....律先輩泣いてましたけど何かあったんですか」

唯「...あずにゃんの名前のせいで...りっちゃんは泣いたんだよ」

梓「...はい?」

唯「"はい?"じゃない、あずにゃんが泣かしたのは事実...追いかけないとっ」

梓「いや、現状がよく...」

紬「りっちゃんは屋上にいるわ」

澁「レーダー!?いつの間に」

唯「こうしちゃいられないぜ、あずにゃん!」

梓「...えと、要は連れ戻せ、と」

紬「これ、付けていって、耳に入ると送受信の出来るスグレモノよ」

澁「.....どこの海外ドラマだ」

唯「ほら、あずにゃん、行かないとっ」

梓「え、あ、はい...送受信出来るなら、少しは手助けしてくださいよ?」

唯「あたぼうよっ!ほら、レッツゴー!」

梓「ちょ、押さなバッ!!」

紬「はい、これ唯ちゃんと澁ちゃんの分」

唯「.....で、一番笑った人は?」

澁「.....一番笑わなかった人に1日従う...ってのは?」

紬「オッケー んじゃ屋上のカメラ映しましょうか」

澁「.....学校で何も出来ないという事を今日理解したよ」

キィィ...

梓「りつ...先輩？」

律「.....なんだ...あちゅ...あちゅさか」

\*

唯濤「ブツ!!」

紬「2人ともアウトー」

唯「だ、だって.....言い直し...ふふっ...」

\*

梓「泣いてるじゃないですか、ほら、ハンカチ」

律「...さんきゅ」

梓「...唯先輩は私のせいで泣いてるって言ってましたけど、何があったんですか」

律「.....いや、何も無いよ、お前の名前は悪くない」

梓「...そう、ですか...」

\*

唯「必死に敬遠して喋ってるね、りっちゃん」

濤「こういうのはあいつ、機転利くから...」

唯「『あずにゃん！そっと肩抱いて！』」

\*

梓(え、ええええっ .....こ、こーかな...)キ ヽッ

律「! ? な、何すんちゃあちゅさ！」(何すんだ梓)

\*

唯濤紬「ブフツ!!」

濤「ぜ、全員か...」

紬「方言みたいになっちゃった...」

\*

梓(え、えと...何か言わないと)

梓「律先輩、後輩の私に甘えるのも大事だと思いますよ」

\*

紬「 」

濤「?なんか笑いとは違う反応が...」

\*

律「う、うるさいなっ、いーの、私は甘えない人なんちゃ！」(なんだ)

\*

唯「あはははははっ」

濤「ここに来て一番の大笑い...」

\*

梓「...なんちゃ、とか何ですか、それ」

律「っ! 何もない! 空耳ちゃっ！」(空耳だっ)

\*

唯「あははっ...ははっ...ひいひい...」

紬「はい、お水」

\*

梓「!! 空耳なんかじゃないです!...もしかしてそれ原因ですか!」

律「ち、ちきょうって!(違うって) あちゅさ(梓)には関係ない!」

\*

唯「ごぶふっ!!」

濤「...律の椅子がびっちゃびちゃだ」

\*

梓「いいえ嘘ですね!唯先輩は言っていました、"あずにゃんの名前が原因だ"って!」

梓「何があったのか知りませんが、妙に回ってない理由が原因なんですね!」

律「ち、ちきや...」

梓「.....何ですか」

律「ふえ?」

梓「...何で、私にそこまで否定するんですか、嫌いですか、私が嫌ですか」

律「え、い、いや...」

梓「私に心配かけたくないとか、そういうのですか」

律「...そーしいお(そーじゃ)」

梓「そーじゃない、じゃないですっ！そんなのお節介です！律先輩じゃないです！」

律「.....」

梓「心配してくれるのは嬉しいです！でも、私ばっかで律先輩の悩みとか聞いた事ないですっ」

律「...ほら、暑くてやりたくなーいとか...」

梓「それは悩みじゃないです！愚痴ですっ！...私じゃ頼りにならないんですか...」

律「.....あちゅ...」

\*

唯「ふいっ」

漣「...不謹慎」

唯「...だつてえ」

\*

梓「...そりゃあ頼りになんないかもですけど...頼りにして欲しいです...」

律「...ごめんな、梓...」

\*

漣「ん？」

紬「あら」

唯「...あれ？『あずにゃん、もっかいりっちゃんの名前呼んで！』」

\*

梓「(.....?)」

梓「律...先輩...」

律「...梓...」

\*

漣「...治った...」

紬「みたいね」

唯「なーんだつまんないのー」

漣「おいっ」

\*

律「ごめんな、梓...」

梓「...いえ、私こそ...唯一の後輩がこんな弱音吐いたらダメですよ」

律「そんな事はないさ、唯一の後輩なんだから弱音吐いてもしっかり面倒見てやるさ」

梓「...律先輩こそ、私に言われる前に練習してくださいよ？」

律「何おう、こいつうー！」

梓「えっ、ちょ、あ、あはははははははっ！！」

律「喰らえーこちょこちょこちょー！」

梓「や、やめてくだっ...あはははははっ！！」

\*

漣「ま、律も治ったし一段落だな」

紬「そうね、んじゃ、改めてお茶の用意しましょう」

\*

律「.....でだ、3人とも」

唯漣紬「...はい」

律「梓の耳に何か入ってたのは分かった、音漏れもしていた」

唯「ムギちゃん...っ」

紬「まだ開発中だったから...」

律「そこ喋らないっ」

唯紬「は、はいっ」

律「結果的に治してくれたのは感謝しよう、だが、笑い過ぎだ」

唯「だ、だつてえ.....」

律「だつても何も無いっ！そりゃあ私が悪いさ、不思議な病だったさ！」

漣「...自覚してるなら終わっていい話じゃんか」

律「漣のライブの写真を紙飛行機にしてグラウンドに飛ばそうか？」

漣「...ごめんなさい」

律「こほん、で、だ、それでも梓をけしかけて...何、笑っちゃいけない24時でもやりたかったのか？」

唯「くっ、くく.....」

律「ゆーいー？」

唯「ご、ごめんなさい！これは、思い出し笑いで...」

律「今後、面白半分て人を！特に梓を使わないように！いいかつ！？」

唯漣紬「...はい」

律「よし！んじゃ、お茶にするちょー(するぞー)」

唯澗紬「ブハッ！」  
律「って、おいっ！！」

出展  
【けいおん！】田井中律は振袖可愛い117【Dr.】

このSSの感想をどうぞ

名前:	<input type="text"/>
コメント:	<input type="text"/>

投稿

[すべてのコメントを見る](#)

- 最後の最後でふいてしまったww -- (名無しさん) 2010-10-12 21:12:13